



盛岡市プレスリリース

～ひと・まち・未来が輝き 世界につながるまち盛岡～

令和4年6月1日
玉山総合事務所
産業振興課

市政記者クラブ加盟社 各位

東京都文京区で「啄木学級 ^{ふみ} ^{みやこ} 文の京講座」を開催します

石川啄木“終焉の地”である東京都文京区を会場に「啄木学級 文の京講座」（第23回）を開催します。

このイベントは、ゲスト講師による講演などを通じて啄木への理解を深めるとともに、啄木“生誕の地”盛岡市と“終焉の地”文京区との相互交流の発展を図ることを目的として開催するものです。

記

- 【日時】** 令和4年7月8日（金） 14時から（13時30分開場）
【場所】 文京区民センター3階 3A会議室（東京都文京区本郷4-15-14）
【主催】 盛岡市、文京区、（公財）盛岡観光コンベンション協会
【共催】 （公財）盛岡市文化振興事業団 石川啄木記念館、盛岡デー実行委員会
【内容】 (1) 講演

演題 「啄木と感染症文学 - 赤痢と結核 - 」

講師 池田 功 氏（明治大学教授・国際啄木学会会長）

<注意事項>

- ① 講演中は写真撮影のみとし、“フラッシュなし”をお願いします。
- ② 取材について、講演内容を切り取るような記事内容はご遠慮願います。

(2) 対談

テーマ 「病と文学」

池田 功 氏

森 義真 氏（石川啄木記念館館長）

【参加予定】 申込定員 100人

【その他】 会場の制約により、例年実施している盛岡市の特産品の販売等はいりません。

～参考～

○初回開催

平成11年8月29日（以後、毎年度開催）

○盛岡市・文京区友好都市提携

平成31年2月20日に締結（啄木生誕の日）。

【問い合わせ先】

盛岡市 玉山総合事務所 産業振興課

担当：高原 庸輔

TEL：019-683-3852

啄木学級 文の京講座

参加者募集!

要申込

(応募方法は裏面参照)

応募締切:

6月22日(水) 消印有効

日時 令和4年 7月8日 金

午後2時開演 (午後1時30分開場予定)

会場 文京区民センター3階 3A会議室
東京都文京区本郷4-15-14



池田 功 (いけだ いさお) 氏



1957年 新潟県生まれ。
明治大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後課程修了。
文学博士。
現在、明治大学政治経済学部教授、同大学院教養デザイン
研究科教授。国際啄木学会会長。
単著に『石川啄木入門』、『石川啄木 国際性への視座』、
『石川啄木 その散文と思想』、『啄木日記を読む』、『啄木
新しき明日の考察』等。
編著に『世界は啄木短歌をどう受容したか』。

第一部

講演

「啄木と感染症文学

― 赤痢と結核 ―

明治大学教授・国際啄木学会会長

池田 功 氏

第二部

対談

「病と文学」

石川啄木記念館

池田 功 氏
森 義真 館長

*新型コロナウイルス感染拡大の状況により、内容を変更する場合がございます。
*ご来館の際は、マスクの着用と手指の消毒をお願いいたします。
*当日、発熱など体調に不安のある方のご来場はご遠慮ください。



この事業は、東京23区による「特別区全国連携プロジェクト」の取り組みの一環として実施しています。

主催/盛岡市・文京区・(公財)盛岡観光コンベンション協会

共催/(公財)盛岡市文化振興事業団 石川啄木記念館

盛岡デー実行委員会

お問い合わせ: (公財)盛岡観光コンベンション協会

TEL 019-621-8800 FAX 019-653-4417

啄木学級 文の京 講座 応募方法

定員 100名 (応募が定員を超える場合は抽選)

(うち文京区在住・在勤・在学者 70名)

受講料 無料

締切日 6月22日(水)消印有効

往復はがき記入例

返信用宛名に
ご自身の住所・氏名の
記入をお忘れなく!!

郵便往復はがき

63 日本郵便 NIPPON

⑤郵便番号

⑦氏名

⑥住所

①「啄木学級」申込

②郵便番号・住所

③氏名(ふりがな)

④電話番号

返信

折れ線

往復ハガキ(一人1枚)に必要な事項(記入例参照)をご記入の上
で応募ください(文京区在勤・在学の方はその旨を記載)。
※電話・FAX・E-mail等での応募はできません。
※結果発表は返信ハガキの発送をもって代えさせていただきます。

申込先 〒020-0871 盛岡市中ノ橋通一丁目1-10
(公財)盛岡観光コンベンション協会「啄木学級」係

郵便往復はがき

63 日本郵便 NIPPON

020 0871

盛岡市中ノ橋通一丁目1-10

盛岡観光コンベンション協会
「啄木学級」係

※ここには何も
書かないでください。

往信

折れ線

石川啄木 本名 石川 一(はじめ)

1886年(明治19年)2月20日、南岩手郡日戸村(現・岩手県盛岡市)の常光寺で生まれ、翌年、寺の住職である父親に伴い、浜村(現・盛岡市波民)の宝徳寺に移り住む。1902年、盛岡中学校を中退して上京し、小日向台町(現・文京区音羽)に下宿。与謝野鉄幹・晶子夫妻から文学の指導を受ける。病を得て故郷へ戻り、1904年、詩集刊行を目的に上京。向ヶ丘弥生町(現・文京区弥生)に居留し、翌年、処女詩集『あこがれ』を出版。同年、盛岡市に戻り、新婚生活を営みながら、文芸雑誌『小天地』を発行。1906年、浪民尋常高等小学校の代用教員となるが、教師生活を1年間で終え、翌年5月、北海道へ渡る。各地を漂泊のち、新たな文学活動の展開を願い、1908年4月に上京し、同郷の先輩・金田一京助を頼りに、菊坂町の赤心館、その後、森川町の蓋平館別荘(ともに現・文京区本郷)に下宿。翌年6月、家族を迎えて弓町(現・文京区本郷)の喜之床(現・新井理髪店の地)に移る。一生に二度とは帰って来ないのちの一秒を惜しみ、また、故郷への想いを短歌に表して、1910年12月、歌集『一握の砂』が出版された。自由な作風と三行書きの特徴をもつ短歌は、当時の文壇の人々を驚かせた。1912年(明治45年)4月13日、肺結核のため、久堅町(現・文京区小石川)にて26歳2か月の生涯を閉じた。2か月後、『悲しき玩具』が発行された。

啄木終焉の地歌碑と顕彰室(文京区)



石川啄木が生涯を閉じた文京区小石川5丁目に、2015年3月、啄木終焉の地を記念する歌碑と顕彰室が完成しました。

歌碑には、啄木の故郷・盛岡市の姫神山で採掘された花崗岩(姫神小桜)が使われ、啄木が最後に詠んだ2首の歌が直筆原稿から陶板で再現されています。

また、歌碑に隣接する介護施設内に設けられた顕彰室には、石川啄木記念館(盛岡市)提供の写真や年表、直筆原稿や書簡のレプリカなどが展示されています。

開室時間 9:00~17:00(年末年始、特別開室時を除く)

所在地 東京都文京区小石川5-11-8

交通 東京メトロ丸ノ内線 茗荷谷駅下車 徒歩7分

<https://www.city.bunkyo.lg.jp/bunka/kanko/spot/ato/kensyousitu.html>

「盛岡デー・イン・東京」イベント案内

会期:令和4年7月7日(木)~7月11日(月)

内容:首都圏のみならず、盛岡の文化・観光・物産などの盛岡ブランドを紹介するとともに、食品や工芸品などの盛岡・岩手の特産品を販売します。

イベント会場:イオンスタイル板橋店

【お問い合わせ】盛岡デー実行委員会 TEL:(019)626-7538

(盛岡市役所商工労働部ものづくり推進課内)

石川啄木記念館(盛岡市)



貴重な直筆書簡など、300点以上の啄木ゆかりの資料を展示。人間・石川啄木の生涯を肌で感じることが出来ます。

開館 9:00~17:00(入館は16:30まで)

休館 毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は翌平日)

年末年始(12月29日~1月3日)

入館料 大人 300円(団体20名様以上は1人につき240円)

高校生 200円(団体20名様以上は1人につき160円)

小中学生 100円(団体20名様以上は1人につき80円)

〒028-4132 岩手県盛岡市浪民字浪民9

TEL 019-683-2315 FAX 019-683-3119

<http://www.mfca.jp/takuboku/>

もりおか啄木・賢治青春館(盛岡市)



1910年(明治43年)に竣工した旧第九銀行を保存活用して、啄木と宮沢賢治が青春を育んだ盛岡の街と2人の青春時代を紹介しています。
【国指定重要文化財】

開館 10:00~18:00(入館は17:30まで)

休館 毎月第2火曜日、年末年始(12月29日~1月3日)

入館料 無料(2階展示ホールは有料の場合あり)

〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通一丁目1-25

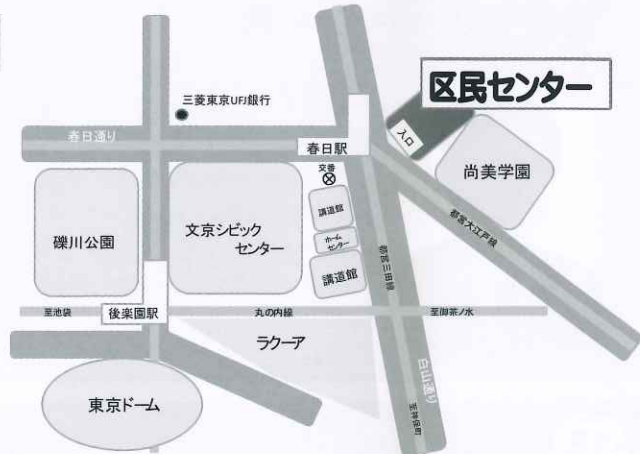
TEL・FAX 019-604-8900

<https://www.odette.or.jp/seishunkan/>

会場までの交通アクセス

- 都営地下鉄 三田線・大江戸線
春日駅下車 A2出口 徒歩2分
- 東京メトロ丸ノ内線・南北線
後楽園駅下車 5番出口 徒歩6分

例年と会場が
異なります。
ご注意ください。



※新型コロナウイルス感染症の状況により、各施設の開館時間等が変更になる場合がございますので、最新の情報は各HPにてご確認ください。